

阿賀野川
aganogawa E-toko dayori



ここにあるすべてを、
かけがえのない「宝もん」へ。

「岩越鉄道沿岸風景 小松の逆帆」(場所:阿賀野市小松/明治後期~大正期/提供:田辺修一郎氏)

もくじ

公害問題の歴史的な節目から、未来を紡ぎ出すために

新潟水俣病に真正面から向き合う
初めてのパネル巡回展を開催

前号の巻頭言でもお伝えしたとおり、「阿賀野川えとこだプロジェクト」(FM事業)では、今年度から「阿賀野川の上流域から下流域までをどうつなげていくか」というテーマのもと、今後の集大成を意識した取組を積極的に展開しています。今号の特集では毎年恒例のパネル巡回展の開催を案内していますが、これまでのパネル作品で各地域の歴史の一コマとして描かれてきた「新潟水俣病」という題材に、今回6回目の巡回展にして初めて真正面から向き合いました。そして、阿賀野川流域全体を舞台に、大河を中心とした近代産業を背景として、その光と影の顛末を描き出した作品となっています。

阿賀野川流域は来年5月末に新潟水俣病の公式確認から50年を迎え、先月にはその際の取組を話し合った第1回目の会合(新潟水俣病公式確認50年事業実行委員会)も開催されました。こうした公害問題の歴史的な節目が、できれば阿賀野川流域の未来を紡ぎ出す一つの契機となるべく、これまでと同様に過去の光と影にも真剣に向き合って参りたいと考えています。

- 特集1 平成26年度パネル巡回展
- 特集2 「阿賀野川と銅山、ダム、そして高度成長の果てに」
併設展示「絵葉書と昔の写真展」
「正解のない問い」を考えるワークショップ開催
- 特集3 阿賀野川えとこだ!流域通信
- 大好評「阿賀野川丸ごと体感プログラムのご案内!」

第14号
2014.11.10

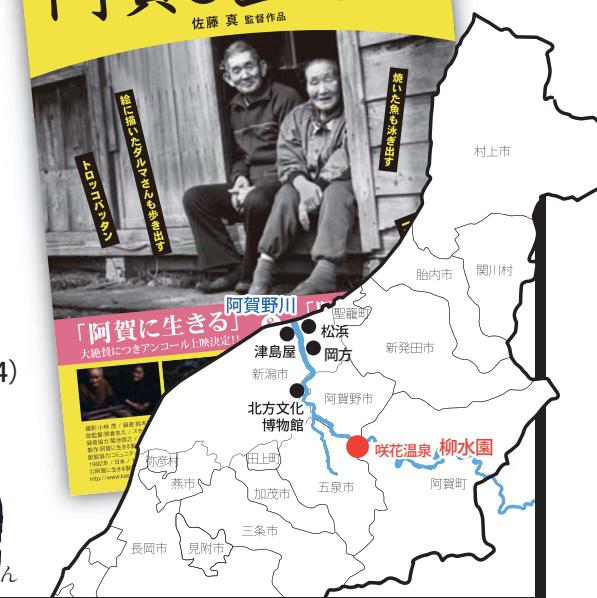
新潟水俣病公式確認 50年事業実行委員会(第1回)が10月14日に開催されました



新潟水俣病は昭和40年5月31日に公式確認され、同年6月12日に公表されました。それから来年で50年を迎えるに当たり、その歴史と教訓を次世代に伝えていくための事業等を検討する実行委員会が開催され、座長を務める知事が「未来に向かって歩みを進められるような会議にしたい」と挨拶しました。



新潟・阿賀野川流域に暮らす人々の温かい生命が描かれた傑作ドキュメンタリー
20年前、カメラは未来を写していた
阿賀に生きる



映画「阿賀に生きる」阿賀野川週上計画のお知らせ

新潟水俣病問題が続く阿賀野川流域に暮らす人々を、3年かけて記録したエンターテイメントドキュメンタリー映画「阿賀に生きる」。この映画の上映会を阿賀野川沿岸各地で順次開催しています。

次回上映

日時 ● 12月13日(土)14時~

場所 ● 咲花温泉 柳水園(五泉市咲花温泉 7241)

※参加された方はお問い合わせ下さい(平岩携帯 080-3142-1684)

上映会の会場準備や上映会の開催を手伝ってくれるスタッフを募集しています!

問 080-3142-1684(平岩)かメールaganogawa210@gmail.comまで

ブログ: http://aganogawa210.blog.fc2.com/



「阿賀野川えとこだプロジェクト」とは?

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(通称FM事業)と言い、阿賀野川流域の各地域が今も続く新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」を紡ぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。

阿賀野川えとこだ!憲章(事業理念)

私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直していきます。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確立へ向けて行動します。(阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会)

編集後記

第14号はいかがでしたでしょうか?

前号でリニューアルオープンを告知したサイト「阿賀野川えとこだ!流域通信」が、無事8月前半に開設されて早3か月が過ぎました。なんと嬉しいことに、リニューアル前と比べてアクセス数は3倍以上に達しており、ご覧いただいている皆さまには大変感謝申し上げます。今後は様々な特集や連載記事などにもますます力を入れて参りますので、今後ともよろしくお願いします。

また、パネル巡回展に併設されたもう一つの巡回展「絵葉書と昔の写真展」もオススメです!昔懐かしい風景や暮らしを振り返ることができますので、こちらもぜひお楽しみに!

阿賀野川えとこだより 第14号

発行:新潟県(※環境省補助事業) 発行日:2014年11月10日
企画編集:一般社団法人あがのがわ環境学舎(〒959-2221阿賀野市保田3866-1)

TEL.&FAX.0250-68-5424
aganogawa@niigata.email.ne.jp

阿賀野川えとこだ!流域通信

<http://www.aganogawa.info/>

アクセス増加中!



特集
1

新潟水俣病の記憶から遠く離れて…

来年(2015年)で、新潟水俣病発生の公式確認から50年

平成26年度パネル巡回展

阿賀野川と銅山、ダム、そして 高度成長の果てに

～大河と近代産業が織りなした光と影～

展示期間

展示施設

展示時間・備考

11/15(土)～11/30(日)

狐の嫁入り屋敷

9:00～17:00 毎週木曜休館

12/3(水)～12/16(火)

阿賀野市立図書館

9:30～16:30 每週月曜休館

12/19(金)～1/5(月)

新潟市東区役所 南口エントラ
ンスホール

8:30～17:30

1/7(水)～1/22(木)

江南区文 花会館内 江南区郷土資料館

10:00～19:00 毎週金曜休館/日・祝10時
～17時/最終日は16時まで

1/28(水)～2/10(火)

五泉市立図書館

9:30～18:30 毎週月曜・1/30(金)休館
土曜・日曜 9:30～17:00

2/14(土)～2/27(金)

新潟市秋葉区文化会館

9:00～22:00 2/23(月)休館
最終日は17:00まで

3/4(水)～3/15(日)

水の駅「ビューフ島潟」

9:00～17:00 3/9(月)休館
入館は16:30まで

3/19(木)～4/8(水)

NEXT21 アトリウム

8:00～23:00

阿賀野川流域では明治以降、大河を利用した様々な産業が発展して、日本の近代化に貢献し、昭和の高度経済成長を後押しする一方、阿賀野川沿岸では公害が発生し、問題は今も続いている。

来年2015(平成27)年に歴史的な節目を迎える現在、これまでのいきさつを流域全体で見つめ直すパネル巡回展を開催します!

「新潟県阿賀野川東信電気鹿瀬発電所堰堤」
(昭和初期／田辺修一郎氏所蔵)

昭和電工株鹿瀬工場と社宅、そして阿賀野川
(鹿瀬工場タイムス昭和29年新年号44号1面)

■開催期間
2014.11/15～2015.4/8

■開催スケジュール(※左表参照)

主催 新潟県
共催 新潟市、五泉市、阿賀野市、阿賀町

■お問合せ&企画

一般社団法人
あがのがわ
環境学舎
TEL&FAX 0250-68-5424



絵葉書と
パネル巡回展に併設!
昔の写真展

阿賀野川流域の
昔懐かしい写真
がいっぱい

詳細は次頁をご覧ください!

現在 今後に向けた様々な取組を展開!



50年間 問題長期化



S40年 公害発生



昭和期 昭和電工



大正期 鹿瀬ダム



明治期 草倉銅山



パネルの流れを紹介

「正解のない問い」を考える

特集
2

新しい公害学習を始めよう!

行政・企業の責任追及や被害者の苦しみを主題とした公害学習は、90年代以降、社会の関心が地球環境問題に移る中で急速に退潮し現在に至ります。「あがのがわ環境学習ツアー」では、時代の変化に合わせた新しい公害学習のあり方を模索しています。

「あがのがわ環境学習ツアー」では、以前から上記に掲げた従来の公害学習とは異なり、事件や事故を起した「当事者の立場で考える学習スタイル」を標榜しています。それは悲惨な公害を一度と繰り返さないために、「どうすれば防げたか、なぜ当時は防げなかつたか」について真剣に考えを巡らした上で、なるべく現実に裏打ちされた解決の糸口を掴んでもらうことが重要だと考えるからです。

ワークショップを導入

とはいってもこれまでのプログラムでは、専門ガイドが一方通行で座学する講義スタイルが中心でした。これは小・中学生向けとしては好評でしたが、複雑な経緯を理解した上で様々な思考を深める必要のある大学生には不評で、思ったような教育効果を上げられてこなかったのが実情です。

そこで、今年度から思い切って手法を転換すべく、三条市在住のワークショップデザイナー・石本貴之さんと協働して、ワークショップを導入した現地見学プログラムを新たに開発し、中央大学法学部中澤ゼミ＆小宮ゼミからご協力を得て、今夏初めて実施しました。

企業研修プログラムにも

こうした切り口の公害学習プログラムは、企業のリスク管理が問われるがちな現代社会では特に意味があると考えられ、将来的には企業や行政職員向けの研修プログラムにも応用できるよう、一層の進化（深化）に努めたいと考えています。

「正解のない問い」を考える

当日のプログラムでは、従来どおり新潟水俣病の発生経緯を現地見学を通じて学んだ後、本格的なワークショップへと移行します。そこでは公害を一度と繰り返さないために、①どのような教訓が社会に必要か、②当時の関係者が行動に移せなかつたのはなぜか、③自分が企業の当事者だった場合にどう考えて行動できるか…など「正解のない問い」について参加者が思考を深める機会が提供され、これまでの公害学習の中で最も活発な反応が得られました。

石本貴之さん(三条市)

平成26年度パネル巡回展「阿賀野川と銅山、ダム、そして高度成長の果てに」併設企画展示



絵葉書と昔の写真展 ～セピア色の阿賀野川～

明治から大正、昭和にかけての阿賀野川流域の様々な風物や暮らしが収められた貴重な写真展示を、今回のパネル巡回展に併設して開催します!

● 絵葉書写真やカメラ愛好家による貴重な写真の数々

かつて明治から大正、昭和戦前にかけて、日本全国の名所・旧跡や記念日の光景などが、当時はまだ庶民には珍しかったカメラで撮影され、絵葉書写真として流通していました。またその後、各地にいたセミプロの愛好家たちが、昭和20～30年代の風物や生活の様子を写真に収めています。国民生活にカメラが普及しカラー写真も登場し始める以前のごくわずかの時代に、FM事業では多くの皆さんのお力を借りて収集して参りましたので、今回初めてその巡回展示を開催いたします。

★数百点の絵葉書を提供

田辺さんは、全国有数の絵葉書収集家で、24万枚以上を所有されています。以前のえ～とこだよりに掲載された資料収集のお願いをご覧になつて、数百点に及ぶ絵葉書データの提供をお申し出いただきました。



本写真展の開催期間・場所等は、前頁の平成26年度パネル巡回展のスケジュールを参照。

※本ページの絵葉書写真は、すべて田辺さんから提供いただいたものです。